

# 具体的施策一覧

内容	具体例	区分	縮減額の種類
<b>I 工事コストの縮減の取り組み</b>			
<b>I-1 工事発注の効率化</b>			
施工時期・内容の調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関連する事業において、施工時期・内容等の事業計画を調整し、計画的な整備を実施することにより、効率的な工事施工及び投資効果の早期発現を図る。（公園と防火水槽の同時発注）</li> <li>・建築工事で同種工事を発注する場合、地域ブロック等を考慮して集約的な発注を推進する。</li> </ul>	○	①
<b>I-2 設計の見直し</b>			
材料の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレキャスト製品の使用促進 各発注部局間で使用しているプレキャスト製品の整合を図り、かつ国及び兵庫県が行う大型排水路のプレキャスト化や二次製品の長尺化に準拠して、プレキャスト製品の使用促進を図る。</li> <li>・施設が必要以上に華美にならないよう、適切なグレードを検討する。</li> <li>・建築材料・設備機器における汎用品、工場生産品等の使用促進</li> <li>・材料の使用数量が超大口となる場合は、見積もりをとるなどして通常価格（建設物価等）と比較して適性な価格を検討する。</li> </ul>	○	①
構造の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植栽工事における積算基準の見直し 樹木の寸法、本数や種類、配列などを工夫し、植樹本数の適正化を図る。</li> <li>・市営住宅等整備基準の見直し 国の公営住宅等整備基準の見直しに準じた「公共住宅建設コスト縮減マニュアル」に基づき、市営住宅等の整備基準の見直しを行う。</li> <li>・市営住宅の廊下の天端手摺りの変更 コンクリート壁のみで手摺りを造り、その上端を廊下内面へ大きく傾斜を取ることにより、落下防止等の安全性を確保する。</li> <li>・排水施設がない道路における透水性舗装の推進 側溝等の排水施設がない道路又は、その設置が困難な道路において舗装する場合、透水性舗装により雨水を処理する。</li> <li>・間仕切壁の簡素化 建築物の間仕切壁を軽量鉄骨下地とし、工事価格の低減を図るとともに、将来の用途変更に対応できるようにする。</li> <li>・高層市営住宅についてラーメン構造から壁式ラーメン構造への形式変更をする。</li> <li>・埋設配管の土工事の集約 建築物の屋外工事の雨水・給水・電気配管等の配管ルートを集約して、土工事を減らす。</li> <li>・構造物の機能性を確保しながら複雑な平面、立体形状を避け、できるだけシンプルな計画を採用し、工事費、維持管理費を縮減する。</li> <li>・施設の収容人数や原単位の見直しにより、施設規模のコンパクト化を図る。</li> <li>・現場条件を検討し、姫路市で開発した単純床版橋計算プログラムを使用した設計を行う。</li> </ul>	○	①
<b>I-3 既存ストックの活用</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植栽計画における既存樹木の活用 公園予定区域内に既存樹木がある場合、公園計画を作成する段階で平面配置計画及び植栽計画の中に取組む。</li> <li>・庁内LANを利用するなどして、情報交換を行い、現場発生品の再利用を図る。</li> </ul>	○	①
<b>I-4 その他の取り組み</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・解体・撤去を考慮した設計 施設には必ず解体・撤去の時期が来ることから、低費用による解体・撤去ができ、かつ、再利用するために必要な分別し易い設計を推進し、最終処分コストを減らす。</li> <li>・施設の設計を工夫することにより、用地費を節減する。</li> <li>・既存ボーリングデータの利用により、調査設計段階でのコストを節減する。</li> </ul>	☆	①, ④

内容	具体例	区分	縮減額の種類
<b>II 工事の時間短縮に配慮した取り組み</b>			
<b>II-1 新技術等の活用</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築工事でマシンルームレス型エレベータを採用して工期短縮を図る。</li> <li>・国の「新技術情報適用システム」(NETIS)等を活用し、工期短縮を図る。</li> <li>・発掘箇所の測量を実測に代えて航空写真撮影を採用することにより、測量期間を短縮する。</li> <li>・発掘調査をより効率的に進めるため、地中レーダー等の探査機械の利用により、遺跡の範囲確認作業を促進する。</li> </ul>	○	①, ②
<b>II-2 二次製品の使用による工期短縮</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート二次製品の使用を進め、工期短縮を図る。</li> </ul>	○	①, ②
<b>II-3 事業便益の早期発現</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果・重要度・緊急性・公平性を考慮し優先順位をつけ計画的な整備をおこなうことにより、投資効果を最大限発揮させる。</li> <li>・事業実施及び用地等の地元協力を得られやすくするため、地元主導で立案した計画を推進する。</li> <li>・周辺関連の他事業との計画調整・年度調整・工程調整を綿密に行い、事業全体の投資効果を上げる。</li> </ul>	★	②
<b>III ライフサイクルに配慮した取り組み</b>			
<b>III-1 維持管理コストを考慮した設計</b>			
耐久性を向上させ、維持管理コストを縮減する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イニシャルコストや維持管理コスト及び更新時のコスト等を総合的に検討し、メンテナンスフリー材料及び機器等の使用を促進する。</li> <li>・水泳プールに無塗装性のステンレス製品を使用する。</li> <li>・防食塗装や耐食性コンクリートを採用して、施設の耐久性の向上を図る。</li> <li>・ステンレス配管等を採用し、施設の耐久性を向上させる。</li> <li>・街路樹等において大きくならない樹種や枝張りの少ない樹種を採用することにより、剪定頻度を減らし維持管理コストを縮減する。</li> </ul>	★	③
<b>III-2 施設の省エネルギー化</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天然ガスコージェネレーションシステム及び深夜電力利用蓄熱システムの導入を促進し、エネルギー利用の効率化及び省エネルギー化を図る。</li> </ul>	★	③
省エネルギー型製品の採用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー型製品(照明ランプ等)を採用し、施設の省エネルギー化を図る。</li> </ul>	★	③
<b>III-3 施設の延命化</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設で台帳を作成して、劣化状況を的確に把握し、計画的な補修・保全を行うことにより、施設の延命化を図る。</li> <li>・管路再生工法により、老朽化した管路の延命化を図る。</li> </ul>	★	③
<b>III-4 参画と協働による維持管理の実施</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民やボランティアによる維持管理を実施することにより、維持管理費の削減を図る。(アダプト制度)</li> </ul>	★	④
<b>IV 工事における社会性に配慮した取り組み</b>			
<b>IV-1 工事におけるリサイクルの推進</b>			
再生資源や資源循環に資する資材等の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・間伐材等を有効に利用した木製構造物の利用促進や再利用を図る。</li> <li>・剪定枝などをチップ化し、堆肥やマルチング化等への利用を検討する。</li> </ul>	○	④
<b>IV-2 建設副産物対策推進</b>			
建設残土の利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設発生土の現場内流用やJ A C I Cを利用して工事間での、建設発生土の有効利用を図る。</li> </ul>	○	①, ④
<b>IV-3 工事における環境改善</b>			
グリーン購入法に適合した建設機械、材料・工法の採用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷の低減を考慮した建設機械を使用する。</li> <li>・環境に対する低負荷機器・リサイクル可能なエコ製品(ケーブル、電線、プラスチック製品等のグリーン購入の推進)を使用する。</li> </ul>	○	①, ④
工事現場のイメージアップを実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理的要素等を勘案した仮囲いや工事看板等に改善し、工事現場の環境保全及びイメージアップを図る。</li> <li>・集中工事の実施により、路上工事の効率的実施と渋滞時間の低減を図る。</li> </ul>	○	④

内容	具体例	区分	縮減額の種類
<b>IV-4 環境と調和した施設への転換</b>			
自然を積極的に創出できる工法を採用	<ul style="list-style-type: none"> <li>各構造物計画・設計の基準となっている構造令、指針等に自然回復が可能な施設を整備する上での設置要領等を盛り込む。</li> <li>多自然型川づくりを推進し、植生、緑化可能な護岸を整備する。</li> </ul>	○	④
環境に配慮した材料の使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境面及び健康面を考慮して、有機水溶性塗材を採択する。</li> <li>木製ベンチの材質を廃木材・廃プラスチック成形材に転換する。</li> <li>公園内の縁石、舗装止めを杉板等に転換する。</li> <li>周辺環境に配慮した低騒音舗装を実施する。</li> <li>雨水樹を浸透樹構造に変更し、雨水の地中への還元及び保水性の確保を図る。</li> <li>ヒートアイランド対策に資する舗装（保水性、遮熱性）を実施する。</li> </ul>	○	①, ④
ユニバーサルデザインの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>構造令等の各種基準及び技術指針等の改定を行ない、年齢等を問わない全ての人に優しい社会資本整備を推進する。</li> </ul>	○	④
自然エネルギーの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電、太陽熱利用など自然エネルギーの活用を促進し、省資源、省エネルギー化及び地球温暖化防止への寄与を図る。</li> </ul>	○	④
屋上緑化・壁面緑化の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>空調負荷の低減やヒートアイランド対策として、公共施設の屋上緑化・壁面緑化を推進する。</li> </ul>	○	④
<b>V 長期的コスト縮減に関する取り組み</b>			
<b>V-1 工事情報の電子化</b>			
電子化により業務や、情報交換をスムーズにおこなう	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計、施工管理にCADデータ等を活用し、業務や情報交換の効率化を図る。</li> <li>CADを利用した数量の自動計算により、事務の効率化を図る。</li> <li>市内の公共工事及び他企業の工事予定、工事中、過去の工事履歴をGISでリアルタイムに把握し、事業執行の効率化を図る。</li> </ul>	○	④
<b>V-2 入札・契約制度の検討</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>入札時VE方式、契約後VE方式、総合評価落札方式、設計施工一括発注方式、設計プロポーザル方式等技術力による多様な入札について検討し、試行する。</li> <li>低入札価格調査制度について適用の拡大を検討する。</li> </ul>	○	④
<b>V-3 技術開発の推進</b>			
技術開発を自らおこなう。(カイゼン提案)	資源循環型排水溝、ロードスパイカーズ（道路整備改善課）	○	①, ④
<b>V-4 積算の合理化</b>			
統一事項を作ることで、積算を合理化する	<ul style="list-style-type: none"> <li>設計・施工技術管理規程の策定 兵庫県内の技術基準に準拠している設計や施工の技術管理規程を、より姫路市の実情に合うように見直しを図り、均一化や合理化を進める。</li> <li>設計業務委託の書式や設計図面の統一 委託内容の明確化を図り、設計業務の成果の均一性を図る。また、図面サイズ・数量計算・単位等の統一により、照合での時間短縮や誤謬を少なくし効率化を図る。</li> <li>舗装修繕において、技術者の育成及び工法マニュアルの作成を行い、舗装修繕の均一化や合理化を図る。</li> <li>姫路市構造物基準の策定 各発注部局で採用している構造物基準の整合化を図り、より経済的に所定の基準を満たす構造物を選定する構造物基準を策定し、事務の効率化や統一性を図る。</li> <li>公共建築物の標準化設計 消防分団車庫や公衆便所等において、標準化による設計・積算の合理化を図る。</li> <li>見積書リストの集中管理 各部署で単独に収集している資材の見積書を一括管理し、閲覧を使用することにより、積算単価決定事務の省力化を図る。</li> </ul>	○	④
<b>V-5 技術的能力の向上</b>			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故情報のデータベース化と事故発生要因を分析し、知識を共有化することにより安全対策を図る。</li> <li>市内公共工事コスト縮減ナレッジシステムの開設 情報・知識・経験等の共有化により、設計、施工管理の効率化を図る。</li> <li>失敗事例について、分析、検討を実施して改善策を周知、共有する。</li> </ul>	○	④